

2.差異の理由

工事施工関連においては新型コロナウイルスの影響により、国内でのトンネル先進調査ボーリング工場の一時休工や海外大型工事現場への着工乗り込み遅延の影響はありましたが、完工高への影響は軽微でありました。ボーリング機器関連においては新型コロナウイルスの影響はほとんど受けなかったものの出荷売上が翌年度へずれ込むものが相当金額発生し、売上高全体では前回予想比365百万円減の7,534百万円の実績となりました。

利益につきましては、工事施工関連のトンネル先進調査ボーリング工事、コントロールボーリング工事及び子会社が手掛けるアンカー工事の粗利益が好調であったため予想利益を上回りましたが、ボーリング機器関連において前記の棚卸評価損132百万円の実施（通常の前記評価損分を合わせると172百万円）により、営業利益は前回予想比108百万円減の251百万円、経常利益は前回予想比92百万円減の167百万円となりました。但し、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては確定税務計算を行った結果、前回予想とほぼ同額の929百万円となりました。

以 上